

令和3(2021)年度大学院教育学院修士課程入学試験問題

外国語(日本語)

(100点満点)

以下の問題のすべてに答えなさい。

問題1 課題文1を読み、以下の問いに答えなさい。

1. 社会一般で多くみられる「ハーフ」の定義を本文の中から抜き出さない。
2. 傍線部①で、著者が「ハーフ」と社会的に呼ばれうる人々の内実は複雑であると述べるのはなぜか。100字以内で説明しなさい。
3. 傍線部②で、著者が「ハーフ」に関わる研究がまだまだ十分であるとはいえないと述べるのはなぜか。理由を2つあげなさい。

問題2 課題文2を読み、以下の問いに答えなさい。

1. 次の(1)～(5)のうち、課題文の内容の説明として正しいものをすべて選び、記号で答えなさい。

(1) クレーパーとクラックホーンは、学力を定義することは文化を定義することと同様に難しいと述べた。

(2) 文化は、個人が後天的に獲得するものであるという点で、条件反射と共通する。

(3) 学力は、文化との関係で個人がどのようにふるまうかという面から理解することができる。

(4) 文化を獲得させる学力だけでなく、創造性を育成する教育を行うことが重要である。

(5) 学力が高いか低いかは、人間の遺伝的形質に特に強く影響されることが明らかになっている。

2. 傍線部aに関して、著者がこのように言うのはなぜか。説明しなさい。

3. 傍線部bに関して、「学力をつける」ための教育実践はどのようなものであるべきか。著者の考え方をふまえて、あなたの意見を述べなさい。

下地ローレンス吉孝『「混血」と「日本人」』青土社、二〇一八年、一八～二〇頁（一部改変）

大田 堯「現代の学力観と学力」『学力とは何か』一九六九年、一四八～一五〇頁